

日本一人口の少ない村が挑む「未来の灯油配送」プロジェクト始動 野迫川村とゼロスペック、IoT技術で灯油配送の効率化と地域見守りを実現

奈良県野迫川村（村長：吉井 善嗣 以下、野迫川村）とゼロスペック株式会社（本社：札幌市、代表者：多田 満朗 以下ゼロスペック）は、2024年9月に「ライフラインとしての灯油供給の安定化による見守りプラス事業」の契約を締結しました。地域の高齢化や人口減少が進む中、最新のIoT技術を活用し、効率的な灯油配送と地域見守りを実現する取り組みを進めています。



野迫川村は人口350人の「日本一人口の少ない村※1」で、高齢化や人口減少が進んでおり、高齢化率は50%に達しています。過疎地において、インフラ維持は大きな課題となっており、灯油や燃料供給の確保もその一つです。野迫川村は、村唯一のガソリンスタンドの廃業の意向を受け、村が中心となって事業継承の形を検討し、一般社団法人にて運営を行っています。

今回のプロジェクトでは、スマートオイルセンサーを全世帯の灯油タンクに設置し、自動発注配送管理システム「GoNOW」により遠隔管理する仕組みを導入します。新しい仕組みの導入は効率的な配送業務の実現だけではなく、地域住民の生活状況を把握する「見守り機能」としても役立てられるシステムです。センサーを通じて各家庭の灯油使用状況を遠隔で確認することで、住民が灯油切れを起こすことなく、安心して生活できる環境を整備します。プライバシーを守りながら、地域住民を見守るこの仕組みは、過疎地における新たな共生モデルの一例であり、過疎地の人口減少の課題解決と、住民の安心を支える新しい灯油供給の形が実現されます。

野迫川村とゼロスペックはプロジェクトの成功に向け、配送オペレーションの一部を北海道からサポートし、この取り組みを通じて、未来を共創する新たなモデルケースを築くとともに、過疎地におけるインフラ維持と見守りの実現に貢献してまいります。

※1 離島を除く